



中熊先生

いうことを、家庭と手を取り合ってやっていくことが大事だと考えます。
園田 僕も家庭が非常に大きな影響力を持っていると思います。僕たちの年代というのは非常に批判精神が旺盛なんです。常日頃親と接しているわけですが、その内、親の言動に矛盾を感じ、それに反発するわけです。ところがそのくせ、自分のことになると精神的に非常に不安定で、その言動は全く矛盾して、自分でも分らない方向に走ってしまうようなところがあります。こういう時に、ちゃんとした方向づけをしてくれる家庭とか学校が必要だと思えますね。



園田さん

学校に関して言えば、僕たちは先生から話しかけられると非常にうれいんです。親父とはまた違った人間の先輩というところで話し易いんです。先生たちから生徒とのふれ合いの場を積極的に設けて欲しいと思います。
中熊 先生たちの間でも、どうして生徒との接触を図るかということは、いつも話題になることです。それでも、中学三年生の父兄にもなりますとね。あっさり申し上げて、頭の中にあるのは、どうやって成績を上げ、いい高校に入れるかというところだろうと思います。また、それに対応していくのが教員の仕事だという受け止め方が一般的でしょうね。そういう状況の中で一人一人の生徒と意思の疎通を図っていくということは大変なことなんです。数年前から「学級の日」といった時間を設けたりして、子供たちの気持ちの中に入っていく工夫をやってはいるんです。子供たちからすれば、まだまだ不足でしょうがね。
実は昨年、私たちの仲間アンケートをとった中に、相談する時は誰れにするかという項目を入れてみたんです。残念ながら、先生に相談するというのは最下位なんです。これではいかんということで、私たちが考え出したのが、逆にこっちから声をかけて色んな話をしようという「呼び出し相談」なんです。でも本当は、生徒が自分の方からやってくるようなムードづくりを私たちがやるべきです。



御池さん

て、お互い問題があれば知らせ合おうじゃないかということをお話合っています。
園田 社会教育が非常に大事だということとは分りますが、正直いって、僕たちはこれに費す時間がないというのが本当のところですね。僕にしても生徒会活動で手一杯なんです。なまけていて時間が一杯ある友達もいますが、彼らは時間があふることが実は問題なんです。何もやることがないからといってやった事が問題になったりするわけでしょう。僕自身、もう少し遊びたい、もう少し自由に勉強だけでなく、色んなものも吸収したいと思えますが、なかなか思うようにはいきません。
中熊 高校生で大学受験を控えて、それに本気で取り組んでいる子供には時間的余裕はないですね。それから、クラブに一生懸命になっている子供は、それを生きがいにしていますから、それでいいんです。問題は、いま園田君が言ったように、勉強もしたい、クラブ活動もやらないうちの子供が問題で、私たちが一番力を入れていこうなるところなんです。



沖田さん

難しい問題です。
沖田 進学という希望もない、一生懸命身を入れて頑張る目的がないということとで安易に逃げていくわけですね。
御池 私たちは、なにかにつけて、子供たちに将来の夢とか希望といったものについて話しかけてやるべきじゃないでしょうか。
中熊 学校で父兄会の時お話しするのは、特別四面はらなくていいから、お父さんが子供たちとの話の中で、何気なく人生訓というか、人間として生きる道といったことについて自然に話せるようになってください。それだけで十分父親の権威が保てますよ、とっているんです。
御池 お父さんもさることながら、学校の先生方に対する不信感もそれなんです。ね。自分たちの悩みに対して、母親は話を聞いてはくれるけれども、何の示唆も与えてくれない。父親・教師は心のより所にもなってくれないというところで、子供は失望を感じているといえますよ。
沖田 中熊先生がいわれるように、先生

らねばならんと思えますが……。
岡本 園田君は、家庭でご両親とよく話をしますか。
園田 特別人生の話などやりませんが、テレビなどの野球と一緒に見たり、学校の話などします。けれども正直いって突込んだ話はやりませんね。

岡本 青少年の健全育成は家庭教育、学校教育が基盤であるという話が出てくるわけですが、もう一つの要素である社会教育という問題でご意見をお聞かせください。
御池 今日、私の校区で警察の防犯課の方においでいただいて、六十名ばかりの「女大学」をやっています。というのでも、先日不純行為の問題が起きたこともありましてね、この際、勉強会をしようじゃないかというわけです。親にとって自分の子はみんないい子なんですよ。と

方の子供たちと何とか話し合おうとしておられるのに、時間がなくてなかなかできないと言われる。ということは、今の教育制度が大学に入学するのは大変だけれども、は入ってしまったら卒業できるところに問題があるように思われます。せめて高校までは、先生が子供と一緒にスポーツやクラブ活動を楽しくむ中で、人間的なふれ合いで教育できるような、そんなゆとりのある環境の中に子供たちを置かれないものでしょうか。そのためには、大学に誰れでもがは入れるようにすればいいんですよ。そして、卒業を厳しくチェックしていけばいいんですよ。少くとも中・高校の段階で、先生が子供と話し合う時間がないなんていう現状は、どうしても解決されなければならぬ問題だと思います。
岡本 青少年の健全育成について、家庭教育、学校教育、社会教育の立場からいろいろお話ししたいわけですが、当面、青少年の育成に当たって、どういふ事が一番大切とお考えか、一言づつ、お願いします。
御池 お父さんが息子とちゃんと話し合える家庭づくりですね。
沖田 やっぱりそうですね。何を聞いても親子の話し合い、ふれ合いが一番大切だと思います。
園田 家庭において一番望みたいことは、両親が仲のいいということですね。勉強しろと強しるという一方で、夫婦が

青少年の環境浄化

ンカなんかやられると、イヤ気がさして勉強どころではありません。親がまず、楽しい家庭づくりというか、そういう雰囲気づくりをやって欲しいと思います。
同年代の人に言いたいことは、勉強ばかりじゃなく、体育でも文化でもなんでもいい、どんどんクラブ活動に参加して欲しいですね。
中熊 社会環境の浄化、これは是非強力に進めて欲しいですね。もうひとつは、大人の教育の場をどうやってつくっていくかという対策が大事だと思います。
馬原 社会の有害環境という高波にもまねながら、それを乗り越えていくには、家庭が防波堤にならなければと思えます。そのためには、正しい判断が将来でさるための幼児期の躾が大事ですね。それから、子供はいつも親を見ています。親が生活態度を自ら正す必要がありますね。



親子の対話が非行防止のひとつの決め手

ところが、このいい子が親の知らないところで悪いことをするんです。それを皆さん方はご存知ないわけです。そこで、地区のお母さん方がみな手を取り合っ